

．海外経済

		2016年11月	2016年12月
世界経済		<p>世界の景気は、一部に弱さがみられるものの、全体としては緩やかに回復している。 先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、アメリカの金融政策正常化の影響、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p>	(変更なし)
アメリカ		<p>アメリカでは、景気は回復が続いている。 先行きについては、回復が続くと見込まれる。ただし、<u>金融政策正常化を含めた今後の政策の動向及び影響</u>に留意する必要がある。</p>	<p>アメリカでは、景気は回復が続いている。 先行きについては、回復が続くと見込まれる。ただし、今後の政策の動向及び影響等に留意する必要がある。</p>
アジア地域	中国	<p>中国では、各種政策効果もあり、景気はこのところ持ち直しの動きがみられる。 先行きについては、各種政策効果もあり、当面は持ち直しの動きが続くものと見込まれる。ただし、不動産価格や過剰債務問題を含む金融市場の動向等によっては、景気が下振れするリスクがある。</p>	(変更なし)
	その他アジア	<p>韓国では、景気は持ち直しの動きが一段と緩やかになっている。台湾では、景気はこのところ持ち直しの動きがみられる。インドネシアでは、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。タイでは、景気は持ち直しの動きがみられる。インドでは、景気は内需を中心に緩やかに回復している。</p>	(変更なし)
ヨーロッパ地域	ユーロ圏	<p>ユーロ圏では、企業部門の一部に弱めの動きもみられるが、景気は緩やかに回復している。ドイツでは、企業部門の一部に弱めの動きもみられるが、景気は緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、地政学的リスクの影響、政策に関する不確実性の影響等に留意する必要がある。</p>	(変更なし)
	英国	<p>英国では、景気は回復している。先行きについては、EU離脱問題に伴う不透明感の高まりによる影響から、回復が緩やかになることが見込まれる。また、その影響の拡大に留意する必要がある。</p>	(変更なし)